

平成 2 1 年 8 月

[配布先：全組合員]

市場情報

各地区の需要動向と市況報告

北海道

気候も景気も異常

さわやかな青空、梅雨のない北海道が売りのはずが、6～7月は蝦夷梅雨に見舞われ、例年になく低温で雨が多い日が続いています。道内景気も気候と同様、企業収益や雇用情勢は一段と悪化、各分野における需要の落ち込みにより大型倒産や経営不振が表面化するなど、顕著な冷え込みが続いております。

道内鉄骨需要は、Hグレードを中心とした大手ファブの場合は、道央圏並びに首都圏の大型物件の受注で、上期は稼働を維持している。しかしながらM・Rおよび地方のファブは本来繁忙期となる時期に、耐震物件以外山済みが進まず近年に例を見ない低稼働を予想している。夏から秋口以降の目ぼしい物件もなく、GC間の過当競争による安値受注で、鉄骨加工単価の指値も厳しく苦戦を強いられ、先行き明るい見通しは少なく悲観的ムードがただよっている。橋梁についても、発注遅れから期待された加工量の山済みが進まず、景気浮揚に向けて早期発注が期待されている。

これを受けてシェアリング業界は、昨年後半から比較的高水準で安定操業が続いていた、大型プロジェクトの加工も上期でほぼ完工見込みであり、今後、一部Hグレードを中心に大手ファブの稼働にも陰りが予想され、新規物件も例年に比べ極端に少なく、本来最盛期となる夏場からの工場稼働の低下が懸念される。切板価格については、高炉厚板と電炉厚板の素材価格差に加え、鉄骨価格の値下りを受け、中小物件の値引き指値が厳しく、販売単価にばらつきはあるが、「値引き合戦」が決して受注増には繋がらないため、地道に価格交渉を続けている。

これからも引き続き在庫調整および与信管理を推し進めます。

(玉造 株・西村卓也)

東 北

最悪期と比べると少し

東北地方の梅雨明けはまもなくのようです。学校も夏休みに入り、朝、近くの公園からラジオ体操の曲が聞こえてきます。

東北地方の状況は先月と大きな変化は無く依然として仕事量は低迷していますが、物件の引き合いがまったく無かった時期と比べますと、少々ですが引き合いが出始めています。価格的には材料価格のピーク時よりも低い価格となっており厳しい状況です。

景気も一日も早く梅雨明けになって欲しいものです。

(J F E 鋼材・庄子悟)

東 京

年末以降が勝負

本年度も1/4を経過、真夏の太陽が照りつける季節となりましたが、1Qは、橋梁受注FABの西高東低と数量は半減、鉄骨は首都圏の大型物件の加工はあったものの、橋梁の減少を補うには至らず、またシヤーにとって一番苦しい材料価格の高値による歩損の影響大きく、収益的にも近年にはなく冷え切った結果となった。

2Qも数量は低位安定の状況が続くと予想されるが、新規受注物件の新価格に期待し、休業等コスト削減に努めながら、暑い夏場を乗り越えて行かねばならない。

下期に期待するところは大きいですが、本年度の橋梁発注分が年度内加工に結びつくか、鉄骨は大型物件はあるものの、時期的に不透明感があり、シヤーの加工は今年末以降の勝負となるのではないかと。

(J F E 鋼材・清水幸雄)

東 海

厳しい工作機械

昨年末より、販売価格が下落一方であった鉄鋼製品が、在庫調整の進展と、スクラップ価格の値上げとの両面で多少値戻し期待が出てまいりました。

仕入先の販売も若干強気になってまいりました。

しかしながら、09年度以降の工作機械受注が、前年比20%前後の水準が続いております。多少、自動車関係で一部車種が動き始めておりますが、設備投資意欲には繋がっておりません。

秋以降の受注に期待しながら、販売先とも協力しながら、乗り切りたいと思います。

(辰巳鋼業・石谷誠)

市場委員会の次回開催予定

第142回市場委員会

9月11日(金) 正午～

於 ラマダホテル大阪